

今年で合併70周年を迎える川本町は、1985年には人口6千人を超え高齢化率も20%未満と活気溢れる町でしたが、日本全土で進行する少子高齢化の波に吞まれ、今は人口3千人弱、高齢化率40%超となり、町中から若者が減り、町の活気にも陰りが見えてきています。

そんな状況下で、川本町職員組合は35歳以下の若手職員で構成される青年部の活動を通して、失われつつある地域社会の活気を取り戻すと共に、地域の方々の助けとなるべく地域貢献活動に取り組んでいます。

川本町職員組合青年部の地域貢献に関する取り組みについて

— 人口減少が続く地域社会で自治体若手職員が担う役割とは・・・ —

島根県本部／川本町職員組合 青年部長 大場 駿

1. はじめに

(1) 川本町について

邑智郡川本町は島根県の中央部に位置し、総面積106.43平方キロメートルのうち、約8割を山林が占め、可住地面積は約7%という中山間地域です。

町を中心に一級河川「江の川」が流れており、かつては川を利用した水運による中継地、宿場町として栄えました。石見銀山領に編入されてからは明治5年には邑智郡役所が置かれ、そこから国や県の出先機関が集中し、邑智郡の行政、経済の中心的な役割を担い、「邑智郡の郡都」と呼ばれ、人の交流も活発で町中も賑わっていましたが、時代が進むとともに人口は段々と減っていき、現在では人口3千人弱の小さな町となりました。

また、平成の大合併では全国的に市町村合併が進む中、川本町は単独での存続を選択し、昭和30年の合併により現在の川本町が発足してから、今年で合併70周年を迎えました。

(2) 青年部について

青年部は35歳未満の男性職員によって組織され、現在の部員数は23名です。

若手職員としての悩みや課題を共有し、その解決に向けて共同して取り組んでいるほか、高齢化が進む地方の未来を担う若者として、職場の同僚、先輩、後輩という関係を超え、同世代の仲間としてお互いに助け合い、支え合いながら地域を盛り上げる活動にも取り組んでいます。

また、近年では青年部の枠組みを超え、姉妹都市や関係団体から派遣された同世代の職員にも活動への参加を呼びかけ、一緒に活動する中で交流を深めています。

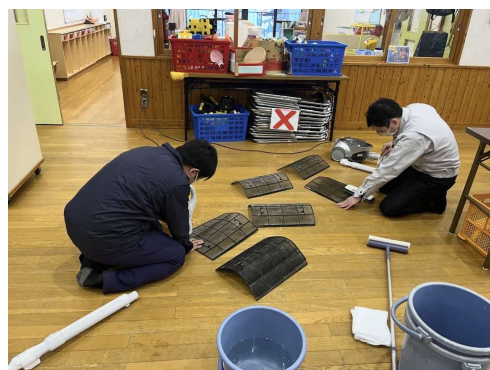
そして、そこで仲良くなった職員たちとは派遣期間満了後も交流が続いており、交流の輪は年々広がっていています。

2. 地域貢献活動について

(1) 保育所との関わり

町内に3箇所ある保育所で行われる夏祭りやクリスマス会に青年部が手伝いに行くのが毎年恒例の活動となっています。夏祭りではアトラクション

(ボール捌いや釣り遊び等)や打ち上げ花火を手伝い、クリスマス会ではサンタやトナカイに扮した部員が子供たちにプレゼントを配ったり、子供たちが考えた質問に役に成りきって答えたりして、毎日たくさんの子供たちをお世話するのに忙しい先生方の一助となるべく奮闘すると共に、町の将来を担う愛



らしい子供たちとの交流は私たちにとって心癒されるひと時となっています。

また、最近では他にも青年部ができることがないか保育所の先生方に要望を訊き、新たに保育所の清掃活動や運動会の準備にも関わる事ができました。清掃活動では草抜きやエアコンのフィルター掃除、窓ふきをしたり、運動会の準備では旗立てやポール立てをしたりして、先生方から非常に助かるとご好評いただきました。

(2) 地域行事との関わり

川本町では毎年秋に産業祭というお祭りが催され、町の通りには出店が立ち並び、祭りの中心となるステージでは伝統芸能の江川太鼓や神楽の公演があり、大きな賑わいを見せています。

その産業祭でも青年部はお祭りを盛り上げるべく、川本町の特産品エゴマを使った料理を提供する出店をしたり、子供たちが楽しめるキッズイベントを開催したり、町外から来てくださったお客さんや町民の皆さんがお祭りを楽しめるよう活動しました。

また、その他にも町内一周駅伝に青年部チームとして参加し、他のチームと接戦を繰り広げたり、町内唯一の高校である島根中央高校の学園祭ではかき氷を提供して出店ブースを賑わせたり、町内の老人ホームで行われた川本福祉会創立50周年祭では施設の職員さんに代わり大判焼き屋の出店をして施設を訪れた方々に喜んでもらえたりと1年間で多くの町内イベントに関わる事ができました。

活動を続ける中で、町内外問わず、様々な人たちと関わり、沢山の笑顔や感謝の言葉をもらったことが活動をする上での一番のやりがいだと感じました。

コロナ禍が収束し、様々な行事が少しずつ以前のように開催できるようになってきた中で、町の行事がかつてのような活気ある姿を取り戻せるよう青年部はこれまで以上に積極的に地域の行事に関わり盛り上げていきたいと思っています。

(3) 他団体との関わり

毎年冬になると、町内の団体（川本町商工会青年部・女性部、島根中央高校生徒会、川本町職員組合女性部など）と合同で実行委員会を立ち上げ、かわもとイルミネーションを実施しています。

これは、旧石見川本駅舎をイルミネーションで飾り付け、冬の夜間ライトアップする催しで、幻想的な姿を見せる駅舎は地域の魅力の一つとなっています。

また、イルミネーション初日は点灯式を行っており、駅舎内では地元保育所の子供たちの作品展示や線路を活用したレールバイク乗車イベント、駅舎外では高校吹奏楽部の演奏や地元団体のダンス、女性部からの温かい汁物の配布などを行い、毎年多くの人が訪れる恒例行事となっています。

町内の団体は人手不足が深刻で活動規模が縮小する中で、こういった催しを青年部以外の方たちと一緒にできる機会は貴重であり、関係各所との連絡調整等やることが多く普段の活動よりかなり苦労しますが、町の人たちとの共同活動となるこのイベントは、地域の活性化において大きな意味があると感じられ、今後もずっと続けていきたいという思いを強く持っています。



3. まとめ

地方における人口減少、少子高齢化の問題は旧来から続く大きな課題であり、地方にあっては避けて通ることのできないものです。町から人が減り、若者が減り、今まで受け継いできた伝統を守っていくこと、これまで地域の方々がしてくれていたこと、様々な事柄に困難が付きまとうようになってきています。

そんな中で、我々が青年部活動を通してできることは極々限られたことなのかもしれません。

しかし、青年部が行う些細な手伝いや小さな交流が積み重なり、かつての活気あった町の姿に少しでも近づけるよう、先達から受け継がれた伝統を絶やさぬよう、地域の人たちの笑顔が一つでも増えるよう、一丸となって自分たちにできることは何か考え、意見を出し合いながらこれからも地域貢献活動を続けていきます。